

# 海外生活 エッセー

## ロンドン事務所

### 海外あるある？ロンドン地下鉄のストライキに遭遇

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 中村 萌子 (東京都派遣)

ロンドンは、150年以上前に世界で初めて地下鉄が誕生した都市です。電車が筒状のトンネルの中を走る様子から「Tube (チューブ)」と呼ばれ、ロンドンの名物として親しまれており、今では、計11路線、272駅を有する世界有数の路線網を誇ります。毎日200万人以上もの市民や観光客に利用されており、大都市ロンドンにとって必要不可欠な存在です。ところが、ロンドンで生活する人々の重要な足であるロンドン地下鉄でも従業員によるストライキが実施されることがあります。2022年3月には、ここ数年で最も大規模なストライキが実施されました。



雨の中、人が殺到するロンドン市内のバス乗り場 (BBC より)

#### → 地下鉄ほぼ全線が運休、街中の様子は？

今回のストライキは、ロンドン地下鉄の従業員約1万人が加入する交通労働者組合 (RMT) が、ロンドン交通局による雇用削減、年金受給条件の変更に向けた動きに強く反発して決行されたもので、3月初旬の平日2日間、地下鉄全11路線のうち8路線が終日運休となりました。このストライキの決定を受け、ロンドン交通局はストライキ期間中の混雑時間帯における外出・出勤をなるべく避け、他交通機関を利用するよう呼びかけました。

イングランドでコロナ関連規制が全面解除されてから初めてのストライキとなった今回は、在宅勤務からオフィス出勤に切り替えていた多くの通勤客に影響を与えることとなりました。タクシー乗り場には長蛇の列ができ、通常どおり運行されていたバスには人が殺到しました。バス停には、雨の中し詰め状態となったバスを何台も見送りながら途方に暮れる人々が溢れかえりました。運良くバスに乗ることができても、タクシーや自家用車で普段よりも交通量が増した道路では渋滞が発生し、自宅から職場まで通常であれば数十分のところ数時間かかってしまうなど、身をもって混乱を体験することとなりました。

#### → パンデミックによる財政危機

地下鉄従業員が大規模ストライキ決行の理由としたロンドン交通局による雇用削減、年金受給条件の変更に向けた動きの背景には、新型コロナウイルス感染症の拡大による利用者の激減により、過去最悪の財政難を迎えていることがあります。ロンドン交通局は財政再建に向けて、政府から新たに2億ポンド (約310億円) の緊急資金援助を受けることと引き換えに、従業員600人分の人員削減、年金受給条件の見直しの検討を迫られることとなったのです。

#### → 政府、地下鉄の自動運転化を検討か

政府は、ストライキの実施は多くの通勤客に影響を及ぼすとともに、ロンドンの経済に大きな打撃を与えるものとして強く批判しています。今回の争点となった人員削減、年金受給条件の見直しについては未だ終着点が見られず、再度ストライキが実施されることも予想されています。将来のストライキに対抗するため、政府はロンドン交通局に対し、新たな資金提供の条件として無人運転に対応した列車の導入を働きかけているとの報道もあります。今後も人々の生活に多大な影響を及ぼすロンドン地下鉄をめぐる政府、ロンドン交通局、労働者組合の動向に注目が集まります。